

# (仮称)第二次多摩市読書活動振興計画の策定

## に関する私たちそれぞれの意見・要望

令和5年度多摩市図書館 市民アンケート

(2024年3月1日~3月31日)



「問 18 多摩市ではこれから(仮称)第二次多摩市読書活動振興計画を策定します。策定するうえで、施策についてご意見・ご要望があればご記入ください。」

### への回答

「多摩市の社会教育を考える会」では図書館による今回のアンケート実施の情報を得、実施方法、設問項目に懸念をもちながらも、問 18 についてはきちんと回答しよう確認し合いました。締切時間が多摩市での通例と異なり、数時間早めに締め切られたため回答できなかった人もいて、回答数が少なくなりましたが、投函できたメンバーの回答はぜひ共有し、図書館だけでなく、多く市民のみなさんと共有したいと考えました。一人ひとりの意見をまとめた形で公開します。当会は、前回、第1次多摩市読書振興計画の原案へのパブリックコメント時(2016年12月)にも、他団体と協力して、メンバーによる投函文書をまとめ、公開しました(以下のアドレスから、当時の発行したデータファイルを入手することができます)。

<https://www.t.hosei.ac.jp/~yarai/tamashakou/dokushokeikakupabukomeshu20160226.pdf>。

今回も同様の書式で編集しました。多くの方にご覧いただき、多摩市の今後の充実した図書館施策をともに考えていただければと思います。



**2024年5月25日**



**多摩市の社会教育を考える会**

## 青木洋子(鶴牧)

・振興計画は図書館全体の中期・長期的計画として大事な方針を示すものと考えます。名称も大事で中身に相応しいネーミングと思えないので、今回変更を求めます。  
例) 多摩市立図書館運営基本計画など。

・H23年に定めた基本方針と運営方針、中央図書館整備のための基本構想・基本計画の内容も含めて今後の検討材料にしながら、図書館全体のネットワークを発展させるような振興計画を策定してください。それによって現行の基本方針・運営方針の表現が変更することもあるかと思えます。

・子どもの読書活動推進計画と一体化すると提案されているので、今までの計画の延長線上にさらに発展するような計画となるよう工夫してください。

・そのためには子どもの読書推進市民ボランティア連絡会から委員が出ることは必ずだと思しますので、漏れがないようにお願いします。

・複合館の中の地域図書館は老朽化による施設更新が検討されていますが、地域館はその地域の大事な社会教育施設であり、徒歩で行ける図書館として機能をできるだけ残す形で、地域館らしいサービスが充実できるよう検討してください。

## 荒井容子(鶴牧)

多摩市の図書館草創期に、市民が本を身近に感じるように、あちこちに本を届けたように、今後は市内で歴史を重ねた地域館を、また拠点館、中央館でも、周辺居住者も意識して、本を身近に感じ、図書館を積極的に活用したいと思えるように、工夫したとりくみを続けてください。特に今回、第二次読書活動振興計画の策定では、今後の図書館運営の方針と重ねて考えるようなので「計画」のタイトルから考えて、この計画を「運営」方針と重ねて考えることでいいのかどうか、それ自体の是非が問われるとは思いますが、この更新、第二次計画策定は、その策定内容を検討するとされている「有識者」会議での討議がはじめられる前から、今後の図書館の運営のあり方について、各館で利用者と図書館職員で語り合う会合を重ね、「有識者」会議がはじまってからも、各委員がきちんと、各館の利用者とともに考える姿勢をもつ、各自、各館での利用者との会合に参加して話し合い、学習しながら、「有識者」会議での議論を

ふかめていく、そのようことができるよう、図書館の方で、工夫して委員をささえ、会議が、議場での話し合いに終わらないように、図書館利用者、市民とともに進められるように工夫してください。そうすることで、はじめて、市民とともに「計画」をつくっていくことができると思います。これは空論ではなく、「本館」検討委員会の基本「構想」策定段階では、その方向で発展がありました。ぜひ、あのような姿勢をよみがえらせ、さらに発展させいってください。

## 鈴木久美子(唐木田)

・これは、中央図書館を中核とした市立図書館全館の図書館ネットワークとして、市内全域の図書館サービスを示すべき大事な計画です。基本方針の「市民の『知る』を支援する」を遂行するために、地域館、拠点館へのサービス計画・体制をどのようにしていくのか、しっかり書き込んでほしい。

・図書館は規模の違いはあっても、利用者が受けるサービスの質に違いがあってはいけない。

多摩市はアップダウンが大きく、高齢化もあり、歩いて行ける身近な図書館がますます大きな役割を果たす。そういう現実をきちんと考え、どの館でも均質なサービスが受けられるよう計画を立ててほしい。

・職員のレベルアップも重要な課題。

・この計画に「子どもの読書活動推進計画」が統合されることになった。今まで時間をかけて話し合ってきた内容や、現場で直接子どもたちに関わっている学校司書や司書教諭、市民ボランティア等の声が十分反映できるように、各代表を策定委員に加えるべきだと思う。

## 辻山妙子(聖ヶ丘)

・中央図書館を核とした8館の図書館ネットワークとしての図書館サービスを示す計画とすべきです。そのうえで地域館、拠点館の役割、サービスのあり方を、各館ごとに明示すべきで、特に地域館4館のサービスの活性化をめざす計画にしていきたい。

計画の名称も、内容に沿えば再検討が必要かと思う。

・図書館サービス向上をめざす計画であるからには、図書館の職員組織もサービス中心に発展させていけるような内容と、専門性を維持育成する職員配置も盛り込む計画としていただきたい。それなくして「市民協働」はありえないと思う。

・「子どもの読書活動推進計画」もこの計画に一本化することになっているが、2007年から市民ボランティアも連絡会の一員として計画推進に携わってきた経過と積み重ねを活かす方向で一本化を検討していただきたい。すでに第三次までに至っている推進計画のきめ細かな施策が消えてしまわないように望む。

・「多摩市立図書館の基本方針・運営方針」の“部分的な見直し”は、なぜおこなうのか

市民・利用者に明示していただきたい。「市民の『知る』を支援する」ことが前進、拡大するための見直しでなければならない。

・策定委員会、有識者会議とも公開とし、希望する市民が傍聴できるようにしていただきたい。市民との意見交換会、学習会開催も検討していただきたい。